

平成28年7月27日

精神障害者地域移行推進専門部会

# 精神障害者の地域移行・地域定着に 関する人材育成について



千葉県健康福祉部障害福祉課

# 1 県が人材育成に取り組む意義



○「都道府県は、精神障害者の保健・医療・福祉・労働に関する施策を総合的に推進するため、関係部署が連携し、組織横断的に地域移行支援を推進するとともに、効果的な人材育成の仕組みについて検討することが必要である」

(厚生労働省「長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的方策の今後の方向性」とりまとめ)

\*「障害のある人自身が自らの経験を基に相談指導等を行うピアサポートの推進」(県総合計画)



## 2 現在の課題



- 精神障害者の地域移行・地域定着に携わる「人材」とは、病院職員、地域援助事業者、行政、当事者（ピアサポーター）等多岐に渡る。
  - 地域移行・地域定着の推進には医療や福祉、行政等の連携が必要である。よってお互いの制度や仕組み等を知る必要があるが、まだ十分とは言えない。
- ⇒特に、精神科病院はスタッフの数が多く、地域移行・地域定着に関する制度や福祉サービス等の知識、スキル習得には現行のままでは限界がある。

# 3 これまでの取り組み



## 【船橋圏域】

オアシスカフェ：平成25年度から病院内で入院患者と地域で暮らす当事者との交流会（スライド上映、会話交流ほか）を開催。病院職員も参加。

＊カフェの他、病院職員向けの福祉施設見学会も実施。ピアサポートを活用。

## 【印旛圏域】

ピアガーデン：平成27年度から病院内で入院患者と地域で暮らす当事者との交流会を開催。病院職員も参加。それをきっかけに、病院は院内研修の一環として当事者の話を聞くことを取り入れた。

## 効果

- ①入院患者：当事者が語ることで、退院が身近に感じるようになった。地域の施設などに興味を持った。今すぐにサービスに繋がらない患者に対して、退院への動機づけをすることができ、後に退院に結びついた。
- ②病院の職員：具体的な地域の社会資源を知り、地域に繋げるという発想ができた。退院支援へのモチベーションが上がった。連携する職種が増えた。病院の風通しが良くなった。
- ③地域で暮らす当事者：自身の経験を語る機会を得る事ができ、それが人のためになると実感し、自信がついた。話せる力もついた。

## 4 今後取り組む内容



- ◎入院患者と地域で暮らす当事者の交流会
- ◎入院患者や病院職員に対する社会資源等の紹介
- \* 上の取り組みに、ピアサポートを活用する。

⇒地域移行・地域定着の推進のため、上の取組を体制化し、実施した内容やノウハウを県内の各圏域に広げる。

### 【効果】

- ・現行の福祉サービスではできない、長期入院患者に対する地域移行への動機づけができる。
- ・病院職員に対する地域移行・地域定着に関する人材育成ができる。
- ・ピアサポーターの育成と、活動の場ができる。

\* これまで実施してきた精神障害者地域移行支援協議会と連動することで、より多くの関係者と共有することができる。

＜千葉県＞  
精神障害者  
地域移行推進  
専門部会

＜千葉県＞  
圏域連携コーディネーター会議  
＊圏域連携コーディネーター  
へのバックアップ(MHC)

＜千葉県＞  
**精神障害者地域移行・地域定着  
人材育成企画チーム(仮)**

下記事業を実施する圏域の圏域連携コーディネーター、  
病院職員、ピアサポーター、県障害福祉課、  
健康福祉センター(保健所) ほか

＜A圏域＞

- 圏域内の関係者で準備、打ち合わせ
  - ピアに対する説明や研修など
  - 入院患者と地域で暮らす当事者の交流会、  
入院患者や病院職員を対象とした社会資源  
説明会や福祉施設見学ツアーを実施  
(選択)
  - ピアへのフォロー
  - 圏域内の関係者で結果等の共有
  - 圏域の協議会で随時共有
  - 報告書の作成
- ＊ 県から委託を受けて実施

＜B圏域＞

同左

＜C圏域＞

同左

...

## 5 将来の展望

- 1回の院内の研修では、参加者に限りがある。
  - 長期入院患者への動機づけは、1回では足りない。
  - ノウハウを蓄積するには、1回では足りない。
- ⇒継続の必要性があると思込まれるものの、事業の検証をしながら、今後予定されている関係法の改正状況や、当該事業以外のピアサポーターの養成状況、病院の取組み状況等を踏まえ、事業の継続についてや、実施内容については検討をしていく必要がある。